

この本読んで!

科学絵本で
SDGs

子どもたちに
生きる勇気を
与える絵本

2023

夏

第87号



もう読んだ?

新刊100冊!!

子どもたちの未来と

SDGs絵本

「カギじいさん」富安陽子

絵本作家のブルース 長谷川義史

こんにちは! 絵本作家さん 堀川理万子

対象別 おはなし会プログラム

特別付録 お役立ち! おはなし会カレンダー



『わたしたちの森』
 作/ジアナ・マリノ 訳/小手鞠るい
 1,760円(ポプラ社)
 ここは、私たちが生まれ育った豊かな森。乾いた夏の日、山火事がまたたく間に燃え広がりました。命からがら逃げのびた生きものたちは、森が再生することを信じてこれからも生きていきます。



『止めなくちゃ! 気候変動 わたしたちができること』
 作/絵/ニール・レイトン
 訳/いわしよよしひと 日本語版監修/向井人史、大山剛弘
 1,760円(ひさかたチャイルド)
 気候は長い年月をかけて変わっていきます。気候変動は、地球上のすべての生きものにかかわる問題。未来の地球のために今、私たちにできることを考えてみたいですね。

気候

『気候変動のれきし はじめて読む '地球を救う方法'の本』

文/キャサリン・バー、スティーブ・ウィリアムズ
 絵/エイミー・ハズバンド、マイク・ラブ
 訳/しまだようこ 日本語版監修/大越和加
 2,200円(絵本塾出版)
 地球は何億年もの間、暑い時期と寒い時期を繰り返し、そのサイクルのうち大部分は暑い時期でした。温室のようにあたたかくなった地上では、たくさんの生命が誕生したのです。



空を見上げて



『そらをとびたい』
 写真/山本直洋 文/ちかぞう
 1,650円(小学館)
 モーターパラグライダーに乗って、鳥のように自在に空を旅する写真絵本です。不思議な地形や、美しく壮大な風景が広がります。さあ、一緒に空から地球を探検しましょう!



『くもとそらのえほん』
 作/絵/五十嵐美和子 監修/武田康男
 1,430円(PHP研究所)
 空を見上げてください。今日はどんな雲が浮かんでいますか? うね雲、すじ雲、うろこ雲など雲にはたくさんの名前がついていますね。それぞれの特徴もわかります。



『かみなり』
 監修/妹尾堅一郎
 協力/音羽電機工業「雷写真コンテスト」
 1,760円(ポプラ社)
 蒸し暑い夏の日、大きな入道雲が現れました。あたりがどんどん暗くなり、ゴロゴロ、ピカッ! と光る雷。雷は雲の中にたまった電気があふれ出たものです。雷をダイナミックな写真で見てください。

伝記

『レイチェル・カーソン物語 なぜ鳥は、なくなっちゃったの?』

文/絵/ステファニー・ロス・シノン
 監修/上遠恵子
 訳/おおつかのりこ
 1,815円(西村書店)

子どものころから生きものに興味を持っていたレイチェルは、海洋生物学者になりました。海の本を書き、有名な作家になりましたが、その一方で、自然界に変化が起きていることに気づきました。



『LE CIEL 天空を旅する切り絵・しかけ図鑑』

絵/エレヌ・ドゥルヴェール
 文/ジュリエット・アインホーン
 訳/檜垣裕美 監修/武田康男
 3,850円(化学同人)

地上から12kmあたりまでを「対流圏」といい、ジェット旅客機などが飛んでいます。12~15kmにある大気の層が「成層圏」。その上が中間圏、熱圏、外気圏と、それぞれの特徴が見事な切り絵で表現されています。



『きみは星のかげら』

文/エリン・ケルシー
 絵/ソリアン・キム 訳/光橋 翠
 1,760円(新評論)

人の体をつくっている原子は、人類が生まれるずっと以前に爆発した星からできています。たったひとつの細胞から生命が誕生して、自然が循環する不思議を美しいコラージュで展開します。



『ちきゅうのかいだん』

作/絵/松岡たつひで
 1,650円(金の星社)

町で見つけた不思議な扉。中の階段を下りていくと時代を遡り、過去の地球を見ることが出来ます。46億年の歩みの中には、絶滅した動物たちがたくさんいました。



『ちきゅうのための1じかん あかりをけそう! アースアワー』

作/ナネット・ヘファナナン 絵/バオ・ルー
 訳/おがわひとみ 1,540円(評論社)

アースアワーは2007年にオーストラリアで、地球温暖化防止のキャンペーンとして始まりました。この、1年に一度「明かりを消す」というイベントは、現在では7大陸のほとんどの国で実施されています。

『ONE WORLD たったひとつの地球 今この時間、世界では…』

作/ニコラ・テイビス 絵/ジェニ・テズモンド
 訳/長友恵子 1,793円(フレーベル館)

イギリスのグリニッジ天文台が夜中の12時のとき、インドの海岸は午前5時半、オーストラリアは午前10時。温暖化が進むそれぞれの場所で、それぞれ異なる問題を抱え、時間が流れています。どうしたらたったひとつの地球を守れるでしょう。



地球のこと

『大きな大きな大きな足あと もし全人類がひとりの超人だったら』

著/ロブ・シアーズ、トム・シアーズ
 訳/きたむらさとし
 2,420円(創元社)

地球の人口は約80億。もし、すべての人に「こんにちは。はじめまして」と挨拶していくと1000年かかり、80億人を1カ所に集めるとロンドンの都市の中に全員がおさまるらしい。そんなふうに、人類をとんでもない「もしも」で仮定してみます。



『つながるいのち うみ・もり・ひとの物語』

作/松本紀生 2,090円(教育出版)

海から川を遡り上ってくるサケは、森でクマに食べられ、食べ残されたサケは、ほかの小動物のエサになります。生きものの命の循環を写真で追っていきます。



『ぼくといっしょに』

作/シャルロット・デマトーン
訳/野坂悦子
1,540円(プロンズ新社)

男の子はおつかいに行くところです。ドラゴンのいる池や海賊の砦など、お店に着くまでにいくつもの難関をぐり抜けなくてははいけません。大人にとっては日常でも子どもには大冒険なんです。



『ぼくだつとべるんだ』

作・絵/フィフ・クオ
訳/まえざわあきえ
1,430円(ひさかたチャイルド)

空を飛びたくて、今日もペンギンのほくは練習します。パパは飛べないと言うけど、ほくにも羽がある! でも、海に落ちてしまい……。空を飛べなくても、すてきな飛び方があるね!



『プールの ひは、おなきたいひ』

作/ヘウォン・ユン 訳/ふしみみさを
1,540円(光村教育図書)

プールのある土曜日になると、おなかが痛くなる女の子。でも、メアリー先生が寄り添ってくれたおかげで、勇気を持つことができました。少しずつ成長していく姿に心あたたまります。

『かなしみが やってきたら きみは』

作/エヴァ・イーランド
訳/いとうひろみ
1,650円(ほるぷ出版)

生きていれば誰だって悲しい気持ちになることがあります。でも、怖がらなくて大丈夫。悲しみとのつきあい方、折り合いのつけ方が小さな人にもわかりやすく描かれています。



『ぼくは あるいた まっすぐ まっすぐ』

作/マーガレット・ワイス・ブラウン
文/坪井郁美 絵/林 明子
1,430円(ペンギン社)

はじめて、ひとりでおばあちゃんの家へ。ぼくは教わったとおり、まっすぐ歩いていきます。道中は山あり、川あり、怖いものあり! 小さな冒険を自分の力で乗り越える姿がほほえましい。



『ぼくの ころろが うたいます!』

作/アンドレア・ペイティー
絵/デイヴィッド・ロバーツ
訳/かとうりつこ
1,760円(絵本塾出版)

アーロンはおはなしを聞くのが大好き。でも、読み書きは苦手です。勇気を出して宿題の発表をしたとき、アーロンに変化が訪れます。識字障害を持つ画家アーロン・ダグラスがモデル。



『きみは たいせつ』

作/クリスチャン・ロビンソン 訳/横山和江
1,760円(BL出版)

どんなに小さくても、近くにいても遠くいても、何が起ころうとも、きみが存在すること。それが大切。自分が大切かどうかわからなくなったきみへ、やさしく語りかけます。

『しっばい なんか こわくない!』

作/アンドレア・ペイティー
絵/デイヴィッド・ロバーツ
訳/かとうりつこ
1,540円(絵本塾出版)

エンジニアになりたい女の子、ロージー。失敗を笑われ傷ついたこともあったけど、大おばさんの言葉で夢に向かっていきます。失敗は成功のもと! 子どもたちへのエールに。



『皇帝にもらった 花のたね』

作・絵/デミ 訳/武本佳奈絵
1,650円(徳間書店)

皇帝は自分の後継ぎを決めるため、国じゅうの子どもたちに花の種を配ります。1年後にそれぞれが咲いた花を持って集まりますが、ひとりだけ芽の出なかった鉢を抱えた子どもがいました。



『ぼくは ひとりで』

作・絵/ファン・グエン・クアン、フィン・キム・リエン 原書編集/ダフネ・リー 訳/はっとりこまこ
2,200円(富士房インターナショナル)

ベトナムの南東部・メコン川流域は、雨季になると川があふれて、人々は船での生活を余儀なくされます。主人公の少年アンは今日のはじめて、ひとりでポートを漕いで学校に行きます。



『ひとりで おとまりした よるに』

文/フィリパ・ピアス
絵/ヘレン・クレイグ
訳/さくまゆみこ
1,540円(徳間書店)

エイミーはおばあちゃんの家へはじめてひとりで泊まりに行きます。かばんには宝物が3つ。でも、夜になると心細くなって……。家族の愛を感じて、ちよっぴり成長する女の子のおはなしです。



『「はやく」と「ゆっくり」』

文/張輝誠 絵/許匡匡
訳/一青 妙
1,540円(光村教育図書)

パパとママには「はやくはやく」とせかさされ、田舎のおじいちゃんたちには「ゆっくりゆっくり」と言われ、ぼくは混乱。おじいちゃんがとっておきの言葉をかけてくれました。

今号の注目

『げんきになったよ こりすのリック』

文/竹下文子
絵/とりごえまり
1,540円(偕成社)

病気が治って、やっと退院した子リスのリック。体力が落ち、勉強も遅れているので、久しぶりの学校にドキドキ。リックは、みんなに勉強を教えてもらい、自分でできることを重ねながら少しずつ元気になっていきます。



作者の竹下文子さんより

リックのように長い入院を経験する子どもは、全体から見れば多くはないでしょう。だけど、風邪で数日お休みしただけでも、学校に行きたくないなあって思ったこと、ありませんか？ 自分だけ取り残されたような不安を抱えて、みんなのいる場所へ出ていくのは、とても勇気のいることです。「おかえり!」と、あたたかく迎えてもらえたら、それだけでどんなにうれしいか。ほっとしたくて……ほっとしてもらいたくて、わたしはこのおはなしを書きました。

『アグネスさんとわたし』

文・絵/ジュリー・フレット
訳/横山和江
1,980円(岩波書店)

雨が降る春の朝、私は母さんとふたりで、野原を見渡す丘の上の家に引っ越してきました。お隣の家には、アグネスさんというおばあさんが住んでいます。夏から秋、そして冬へ。アグネスさんとの交流が深まっていきます。



『うみ』

作/ピレット・ラウド
訳/内田也哉子
1,760円(岩波書店)

うみは、魚たちをととても愛していたので、精いっぱい面倒を見ていました。ごはんを食べさせ、風呂に入れ、寝る前には物語を読んであげていたのです。そんな毎日に疲れたうみは、ある日、魚たちを置いて、どこかへ行ってしまう。



『みんなのいちねん』

作/たけうちひろ
1,760円(アリス館)

あなたの家では年中行事をいくつかしていますか？ お正月、節分、ひな祭り、お花見……と、各月の行事が、美しい切り絵で紹介されています。問いかけに答えながら楽しめるように工夫されています。



『おちびさんじゃないよ』

文/マヤ・マイヤーズ
絵/ヘウオン・ユン
訳/まえざわあきえ
1,870円(イマジネーション・プラス)

体は小さいけれど何でもできるテンちゃん、自分をおちびさんとは思っていません。昼休みの食堂で、いじめっ子が自分より小さいように見える転校生をからかっているのを見たテンちゃんは、大きく息を吸いこみました。



『ごみしゅうしゅうしゃのほいすけくん』

作/正高もとこ
絵/鎌田 歩
1,430円(岩崎書店)

ゴミを集めて回るほいすけくんは、友だちのばっくんがのせていたスプレー缶から火が出たので、ゴミ集めが不安になりました。でも、町の人たちや子どもたちが応援してくれて、今日もほいすけくんは町を走ります。



『ちいさな ちいさな ヤクのガーター』

文/ルー・フレイザー
絵/ケイト・ヒンドリー
訳/三原 泉
1,760円(岩崎書店)

ヤクの群れの中でいちばん小さなガーターは、努力をしたけれど、なかなか大きくなれません。けれど、小さいガーターだからこそできることが起こりました。いずれはみんな大きくなるけれど、今は今の自分を楽しみましょう。



『ぼくのともだちは、あたまにはながさいている』

作/ジャーヴィス
訳/まきもりれい
1,760円(岩崎書店)

ぼくの友だちのデイビッドは、頭にきれいな花が咲いています。みんな、ふんわりしてやさしいデイビッドが大好きです。でもある日、花びらが1枚とれてから、彼は変わってしまいました。どうすればもとに戻れるでしょう。



もう読んだ？
新刊 100!!

2022年12月～23年2月に発売された新刊絵本の中から、読みかきせにもおすすめの100冊を選びました。絵本で子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順 ※㊦は右開きの本。
㊦ マークは乳幼児から、㊧は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『どうぶつ どっちからよんでも たぶんぶた』

文/本村亜美
絵/高畠 純
1,540円(絵本館)

前から読んでも、後ろから読んでも同じになる文章のことを、「回文」といいます。「こねこ」「わににわ」「かばか」など、動物たちが登場する31の回文が並びます。声に出して読むと、どんどん愉快になってきます。



『マッテオじいさんのふしぎなジェラート』

作/花屋光昭
1,760円(潮出版社)

ジェラートをつくるマッテオじいさんとアンナは、呪文を唱えてつくとながーくのびる、「まほうのジェラート」のレシピを手に入れます。それは、はるか昔に魔女がなくなったもので、今でも探しているレシピでした。



『グローイング アップアップ』

文/宮藤官九郎
絵/大塚いちお
1,760円(NHK出版)

ごはんのときに座るイスは、このごろきゅうくつで、座るとヘンな音がします。ほくが大きくなったから、いとこのマークンにあげることになりました。赤ちゃんのときから座っていたイスとのさよならの日がやってきます。



『ねこねむる』

作/楓 真知子
1,540円(絵本館)

「おおかみ おきる」「まんどりの まざる」。言葉遊びに、迫力ある絵と大胆な色使いがまざり合います。月夜のもとで「ねこねむる」。そして再びページを開くと、お日さまのぼり、オオカミが起きてきます。



『ただいまねこ』

作/ミヤサーナツ
1,650円(NHK出版)

幸せな毎日を送るネコのちびた。ある日、仲間のネコから今日はおうちに帰る日だと言われ、渡された小さな布を頭に巻くと、あかりちゃんちのネコだったことを思い出します。今日は年に一度、あかりちゃんと会える日です。



『すうじのかくれんぼ』

作/いしかわこうじ
1,210円(偕成社)

1から10までの数字の後ろに、何か隠れているようです。ちよっぴり見えている絵をヒントに、よ〜く考えたら、数字の部分を開いて、みんなで、仕掛けを楽しみましょう。最後に出てくる数字は100。何が隠れているのかな？



『うさぎ ぴこん!』

写真/松橋利光
文/池田菜津美
1,210円(アリス館)

耳をぴこん!と立てたウサギ。ふわふわの毛のウサギ。元気いっぱい走るウサギ。うとうとするウサギ。においを嗅ぐときは、鼻をひくひくさせます。かわいらしい姿やしぐさがおさめられたウサギ愛あふれる写真絵本です。



『草原が大好き ダリアちゃん』

作/長倉洋海
1,650円(アリス館)

たくさんのトナカイたちとシベリアで暮らしているダリアは、元気な5歳の女の子。長い冬が終わって、春が近づいてくると、大移動の準備が始まります。草原で暮らし、成長するダリアの表情を、生き生きととらえています。



『ねこのお風呂や』

文/くさかみなこ
絵/北村裕花
1,650円(アリス館)

真夜中に開く、ネコ専用のお風呂屋さんには、ぬる〜いお湯の、またたび湯やタワー風呂など、ネコに合わせたお風呂がたくさん。マッサージやおしゃべりで毎日の疲れをとり、にやっぴりして帰ります。いい湯だにや〜。



プログラム(各10~15分) 小学校高学年

7月 テーマ: 星にねがいを

①「天人女房」

再話/稲田和子
絵/太田大八
1,650円(童話館出版)

七夕祭りの由来にもなっている天人女房のおはなしを、格調高い絵と鹿児島地方の言葉で、あらためて天の川を眺めたくてほしい。



②「星の使者 ガリレオ・ガリレイ」

文・絵/ピーター・シス
訳/原田 勝
1,760円(徳間書店)

16世紀のイタリアで天体を観測し、地動説を唱え続けた科学者、ガリレオ・ガリレイの生涯。聞き手が大勢の場合、手書き文字や挿絵部分をあとでじっくり見てもらいたいとつけ加えることも忘れずに。



8月 テーマ: 山をおもう

①「山は知っている」

作/リビー・ウォルデン
絵/リチャード・ジョーンズ
訳/横山和江
1,650円(鈴木出版)

ある山で一日が、夜明けの場面から始まります。生きものたちの営みが、いつも山に見守られていることに、はっとさせられます。



②「富士山にのぼる 増補版」

作/石川直樹
1,540円(アリス館)

冒険家で写真家でもある著者の、はじめての写真絵本の増補版。富士山のさまざまな姿を迫力ある写真と文章で伝えます。山の日にぜひ。



9月 テーマ: 地図に希望をたくして

①「しあわせなときの地図」

文/フラン・ヌーヨ
絵/ズザンナ・セレイ
訳/宇野和美
1,540円(ほるぷ出版)

大切な場所を思う少女の気持ちが心を揺さぶります。文章のないページもよく見せ、気持ちをこめて届けましょう。



②「おとうさんのちず」

作/ユリ・シュルヴィッツ
訳/さくまゆみこ
1,650円(あすなろ書房)

戦争で故郷を追われた少年が、厳しい生活の中で生きる原動力としたのは父が買ってきた地図でした。最後に著者の自伝的作品であることを補足して。



(古市未央)

プログラム(各10~15分) 小学校中学年

7月 テーマ: 夏空の不思議

①「にゅうどうぐも」

作/野坂勇作
監修/根本順吉
990円(福音館書店)

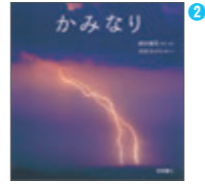
夏のある日、空に現れた入道雲。時間とともに、その形が変わっていきます。主人公の兄弟の様子を、想像力をふくらませます。



②「かみなり」

監修・写真/武田康男
構成・文/小杉みのり
1,430円(岩崎書店)

入道雲が大きくなると、雷雲になります。雲の中でどんなことが起きているのでしょうか。雷の臨場感は、写真絵本ならではの。



③「どしゃぶり」

文/おーなり由子
絵/はたこうろう
1,540円(講談社)

急に降りだした、どしゃぶりの雨。雨の勢いや音、においを一緒に体験できる1冊です。



8月 テーマ: 心おどる、夏

①「わっしょい 深川八幡 水かけ祭り」

作/やじますみ
1,760円(ポプラ社)

3年に一度の大祭の日、町じゅうがひとつになります。「わっしょい わっしょい」と声をかけ合い読みすすめると、一体感が味わえます。



②「はなびのひ」

作/たしろちさと
1,430円(佼成出版社)

夜空を彩る大輪の花、火花。江戸の町並みを見ながら、火花を見たさに、早くから出かけてくる人々をたどってみるのもおすすめです。



9月 テーマ: お月さまのごほうび

①「おつきさまのスープ」

作/野中 稔
絵/木原未沙紀
1,650円(くもん出版)

闇に溶けたみたいで、姿が見えなくなるネコが、おつきさまのスープを飲むおはなしです。不思議な世界を、リスミカルに味わいましょう。



②「きょうはそらにまるいつき」

作/荒井良二
1,540円(偕成社)

みんなが見上げるお月さま。お月さまも、みんなを見守ってくれています。そのあたたかさを、ゆったりとしたテンポにのせて届けましょう。



(増田穂里)

プログラム(各10~15分) 小学校低学年

7月 テーマ: お母さん大好き!

①「しげるのかあちゃん」

作/城/内まつ子 絵/大畑いづの
品切れ中(岩崎書店)

しげるの母ちゃんは2トトラックに乗り、あらゆる工具を使いこなし、つけまつげに茶髪、世界一かつこよくて頼りになる母ちゃん。



②「おかあさんのおべんとう」

作/たろいしまこ 1,540円(童心社)

お母さんが遠足の日に寝坊してしまい、ママちゃんはハラハラドキドキ。お弁当は大きなおにぎり。でも中身はお楽しみ。



③「せんたくかあちゃん」

作・絵/さとうわきこ
1,100円(福音館書店)

洗濯が大好きで、落ちてきた雷さままで洗ってしまうパワーあふれるお母さん。



8月 テーマ: 元気いっぱい夏

①「なつやさいのなつやすみ」

作/林 木林 絵/柿田ゆかり
1,408円(ひかりのくに)

夏野菜たちのダジャレがいっぱいできるとりません。



②「なすのぼうや」

作/久住卓也
1,430円(ポプラ社)

大好きな紫色の帽子が飛ばされ、さがしにくくなすの坊やと野菜たちのおはなし。



③「なつのいちにち」

作/はたこうろう
1,100円(偕成社)

とても暑い夏の日、でっかいウワガタムシをつかまえたときの感動を描いた力強い絵本。



9月 テーマ: おじいちゃんのお話

①「おじいちゃんのごらくごらく」

作/西本鶏介 絵/長谷川義史
1,430円(鈴木出版)

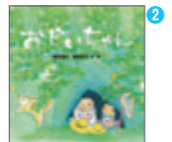
亡くなったおじいちゃんのごらく「ごらくごらく」と言うと心がやさしくなれます。



②「おじいちゃん」

作・絵/梅田俊作、梅田佳子
1,430円(ポプラ社)

死んだおじいちゃんの思い出を見つけながら散歩するちよびりせつなく、あたたかいおはなし。



③「ソーじいじのわっしょい」

文/おたしのすけ 絵/さかいりえこ
品切れ中(里文出版)

祭りになると現れる黒フクロウのソーじいじ。「わっしょい」は和を背負うという意味です。



(鶴見美佐子)



対象別おはなし会のプログラムです。ここで紹介する絵本や紙芝居は、ご家庭での読みきかせにもおすすめです。ブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

七夕

「たなばた」

再話/君島久子 画/初山 滋 1,100円(福音館書店)
よく知っている七夕のおはなしと、これはちよつと違います。中国に伝わるおはなしを、モダンで幻想的な初山滋の絵で、楽しんでみましょう。



お盆

「ぼんやきゅう」

文/指田 和 絵/長谷川義史 1,430円(ポプラ社)
一年に一度、夏のお盆にやっていた野球大会は、すべてが津波にのみこまれたあの年から行われなくなりました。でも、優勝旗が見つかり、地域の交流が復活したのです。



紙芝居

「アオバスクのおうちさがし」

脚本/キム・ファン 絵/おたぐるまり
2,090円(童心社)

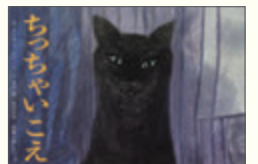
アオバスク(青葉木菟)は、夏の季語にもなっている渡り鳥。パートナーは見つかりましたが、子育てをするための巣は、どこにあるのでしょうか?



紙芝居

「ちっちゃいこえ」

脚本/アーサー・ピナード
絵/丸木俊・丸木位里「原爆の図」より 2,970円(童心社)
15点の連作からなる「原爆の図」から、7年の歳月をかけて絵を選んで切り取り、さらに工夫をこらして構成された紙芝居です。この声に耳を傾けてみましょう。



紙芝居

「おつきさまとおつきみ」

脚本/あべしまこ 絵/土田義晴
1,540円(童心社)

こんちゃんたちが十五夜の準備をしていると、お月さまが言いました。「私も、みんなと一緒におつきみしたいなあ」。その願いをかなえようと、こんちゃんは考えました。



(安富ゆかり)

子どもと一緒に 平和を考える本

あわただしい日常でも夏のこの時期には、戦争と平和を考える時間をもちたいものです。子どもと一緒に本を読んで、戦争のこと、そして大切にしたい平和のことを話し合ってみませんか。22年夏号(83号)の特集「平和を考える絵本」以後に発売された本をご紹介します。

読みもの



『光にむかって
サーロー節子
ノーベル平和賞のスピーチ』
編/くさばよしみ
絵/やまなかももこ
1,870円(汐文社)
13歳のときに被ばくした節子さんは、広島と長崎の原爆で亡くなった二十数万人の人を思い、「人類は核兵器を持つてはならないのだ」と訴えます。2017年、国際組織 ICAN にノーベル平和賞が授与されたときのスピーチです。



『なきむし せいとく
沖縄戦にまきこまれた
少年の物語』
作/たしまゆきひこ
1,760円(童心社)
せいとくが国民学校2年生のころ、沖縄本土では戦争が激しくなり、家を出て逃げるようになりました。日本軍の兵士からも追われながら、戦火を逃げ回るなか、お母さんが撃たれてしまいます。

『シリアからきたバレリーナ』

作/キャサリン・ブルートン
訳/尾崎愛子 絵/平澤朋子
1,650円(偕成社)
シリアからイギリスに逃れてきた難民の少女アーヤは、毎日、弟の面倒を見ながら難民支援センターに通っています。ある日、同じ建物の中からシリアで習っていた大好きなバレエの音楽が聞こえてきました。



『カメラにうつらなかった真実
3人の写真家が見た日系人収容所』

文/エリザベス・パートリッジ
絵/ローレン・タマキ 訳/松波佐知子
3,850円(徳間書店)
1941年、日本軍のハワイ・真珠湾攻撃後、アメリカ西海岸に住んでいたすべての日本人が強制収容所に送られました。そこでの生活を、3人の写真家がのこした記録や人々の証言とともに伝えます。



新刊

『キーウの月』

作/ジャンニ・ロダリー
絵/ヘアトリーチェ・アレマーニャ
訳/内田洋子
1,320円(講談社)
キーウの月は、ローマやインドでも同じように輝いているのでしょうか。月は世界中に光を届けます。イタリアの国民的作家、ロダリーの詩が、ウクライナ救援のため絵本化されました。



絵本



『『ヒロシマ 消えたかぞく』の
あしあと』
著/指田 和
1,760円(ポプラ社)
広島原爆で一家全員が亡くなってしまった、六郎さん一家の写真をもとにした絵本『ヒロシマ 消えたかぞく』。作者が広島に住む人々と交流を深めながら、絵本をつくりあげた経緯が記されています。



『チャンス
はてしない戦争をのがれて』
作/ユリ・シュルヴィッツ 訳/原田 勝
1,760円(小学館)
『よあけ』(福音館書店)などで知られる作者の自伝。4歳のころ、ナチスから逃れるために、出身地ポーランドから各地を転々としてきました。彼は、飢えや病気などに耐えながらも絵を描き続けました。



『せんそうがおわるまで、
あと2分』
作/ジャック・ゴールドスティン
訳/長友恵子
1,980円(合同出版)
同じ町で同じ日に、2分違いで生まれたジムとジュール。ふたりは仲よしで、戦地でも一緒に戦いました。でも、戦争が終わる2分前に、いつも先を行くジムが撃たれてしまいました。



『すなはまのバレリーナ
エリアナ・バヴロバのおくりもの』
文/川島京子 絵/ささめゆき
1,760円(のら書店)
約100年前、ロシア人バレリーナのエアナが、日本ではじめてのバレエ学校を開きました。戦争が始まってからは苦労が続きましたが、バレエという芸術は、その後もたくさんの人々に愛されています。

『ももちゃんのピアノ
沖縄戦・ひめゆり学徒の物語』

文/柴田昌平 絵/阿部 結
1,650円(ポプラ社)
ピアノを弾くことが大好きなももちゃん。ピアノを弾くために勉強もがんばって、学校へ通いますが、戦争がどんどん近づいてきて、とうとう弾くことができなくなりました。



『ひろしまの満月』

作/中澤晶子 絵/ささめゆき
1,320円(小峰書店)
カメのまめがすんでいる池がある家に、かえでちゃんの家族が引っ越してきました。話すことができるまめは、昔この家に住んでいたみのるくんとまつこちゃんのことを語ります。



『ちきゅうパスポート』

作/あべ弘士、石川えりこ、
ささめゆき ほか
1,980円(BL出版)
子どもたちが国境を越えて、想像力で自由にどこへでも行けるように。6カ国24人の絵本作家が、それぞれ想像の国を描きました。描かれているそれぞれの国はつながっています。



『戦争が町にやってくる』

作/ロマーナ・ロマーニシ、
アンドリー・レシヴ
訳/金原瑞人
1,760円(ブロンズ新社)
花があふれるすてきな町ロンドに、ある日突然、戦争がやってきました。“心も心臓もない”戦争は、誰ひとり見逃すことなく攻撃します。でも、光と歌が、戦争の動きを止めたのです。



すべての子どもたちに笑顔を支援の必要な子と絵本

本連載も10回目を迎えました。

今号では、0歳から18歳の発達に不安を持つ本人や家族、関係者を対象に、相談支援・発達支援・療育支援を実施している「清瀬市子どもの発達支援・交流センター とことこ」(東京都)のセンター長、岩澤寿美子さんにお話をお聞きします。

取材・文／小山まゆみ



岩澤寿美子 いわさわ すみこ
公認心理師、臨床発達心理士、精神保健福祉士。東京都清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこセンター長。保護者や子どもへの相談・療育指導のほか、幼保園・小中学校への巡回指導なども行っている。

保護者とお子さん自身が力をつけていくことが大事

「清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ」(以下「とことこ」)に来られる方は、お子さんが小さいときはお子さん自身が困っているというより、保護者の方が育てにくさを感じて、相談にいらっしゃることがほとんどです。保護者自身が調べて相談にいらっしゃることもあれば、1歳半と3歳児健診の保健師さん、保育園・幼稚園の先生、小学校のご紹介などでつながる方もいます。

医師がいる病院ではないので、診断する機関ではありませんが、集団の中で生きにくさのようなものを抱えているお子さんを、どうフォローしていくのかも支援の領域になります。

お子さんたちの主な特性は、ADHD(注意欠如・多動症)やASD(自閉スペクトラム症)など。症状としては、言葉が遅い、集団指示に応じることが苦手、自分のやり方がある、こだわりがある、発達に凸凹があるなどのほか、生活習慣が身につけにくかったり、学習面に課題が見えてくるお子さんも。

支援としては、小さいときは環境調整(特性に合った対応)が中心で、中高校生になると自己理解のフォローになります。そして、高校を卒業して、どういう生き方をしたいかといったこともサポートします。

私たちが大きな目標にしているのは、お子さんに「ひとりであるばつて」と言うのではなく、上手に世の中の資源を活用する力や、SOSを出しやすい力をつけてもらうこと。保護者とお子さん自身が力をつけていくのは、とても大事なことだと、とらえています。

絵本に興味のない子がいるのは大前提

3〜5歳の未就学児については、月曜日から金曜日まで「とことこ」に通所することもできま

す。けれども最近の傾向としては、保育園や幼稚園に行きながら、週に1〜2回、「とことこ」に来て、少数のグループで練習するお子さんが多くなっています。

絵本を使う場面は、1対1の個別の療育や、5〜6人の小さな集団のお子さんに向けてというのがメインです。活用の仕方としては、お子さんの興味のある絵本や季節の絵本を選び、季節が夏なら虫捕りの絵本を読み、それが散歩につながったり、工作につながったり……。つまりは定型発達のお子さんに対するものと変わります。

ただ、やはりいろいろな特性のお子さんがあるので、興味のある絵本といっても、なかなか全員が一致するようなことにはなりません。みんなに向けて絵本を読んでも興味を持っていない子がいることも、大前提といっていると思います。

お子さんと手をつなげない保護者の方にお話を聞くと、あっちに行かないよう手を引っばったり、止めたりで、楽しく手をつないでいる場面が見当たりません。それは大人と手をつなげないよねというところに目を向け、療育の中ではどうしたら手をつなぐ楽

しさや人とふれあう楽しさを感じてもらえるかを考えます。それと同じで、絵本に興味のないお子さんは、やはり親しみを持ってないわけですから、聞かせようと思っても難しいのは当然です。配慮としてはまず、種をまいておく必要があります。特に小さいときは、環境調整が大事です。保護者の方は「集団の中でこれできないと言われた」「家でこれができるが大変」などと言われることが多く、不安を抱えていらつしやいます。けれども、私たちが見ているのはそのお子さんのできないところではなく、こうすると楽しめるかな、こういう関わりだといかなといった点です。

ひとりひとりに丁寧に関わり方を変える

環境を整えることのひとつには、大人との関わりが必要です。たとえば、人への興味・関心が薄いお子さんに、いきなり「これから絵本を読みます」と言っても、興味を示してもらおうのは大変です。そのため、本人が興味のある本をパラパラめくっているところを隣で一緒に眺めたり、声をか

けたりということから始めるのが最初。ときにはおもちゃを使ったりしながら、人への興味につなげていくこともあります。「とことこ」では、5〜6人のお子さんに対し、大人が3人程度つきまますので、絵本を読んでいることをじゃましない程度に、本人の興味に合わせて、通訳するなど、本に目を向け、読み手や他児へと関心を持ってもらえるように結びつけることもあります。まず人への興味をつなげていくのが大事で、それができるのは少数数のよ

さといえるでしょう。また、小学生のお子さんと一緒に「ノンタン」シリーズ(偕成社)の絵本などを読むこともあります。そして、人の気持ちを考えたり、他者の立場に立つて、「どうしてノンタンは嫌われちゃったんだろうね」と考えたりします。数字が大好きなお子さんなら「100かいたてのいえ」(偕成社)のような、数字が登場する絵本には興味を示すことが多々あります。車好きな子が、最初は自動車の絵をただひたすらめ

くるだけというのでもよくありますね。本来の絵本の活用方法ではありませんが、絵本をトンネルや道にしてみたり、ひとりひとりのお子さんに丁寧に関わり、お子さんによって関わり方を変えていく必要はあります。でも毎年、学年が終わる3月には、絵本の時間が楽しみなってきます。

※次回はおはなし会でも使える具体的なテクニックと考え方についてお聞きします。

岩澤さんの関連本



『発達障害の私がすごした保育園のときの話』

漫画/ざくざく 解説/岩澤寿美子 1,980円(税別)

30歳のときにADHDと自閉スペクトラム症と診断された著者が、「自分だけ違う」と感じていた幼少期のモヤモヤを漫画で紹介。発達障害の傾向がある子を理解するヒントがたっぷり。

『決定版 シーン別対応がわかる 気になる子の保育サポート 74実例』

監修/岩澤寿美子、西村和久 2,145円(新星出版社)

大人にとって「困った子」に見えても、実際に困っているのはその子自身です。保育の現場でよくある“気になるシーン”を5つのテーマに分け、具体的な対応例をたっぷり紹介。



『背景』から考える 気になる子の保育サポートブック』

監修/岩澤寿美子、西村和久 医療監修/木村一優 1,870円(新星出版社)

落ち着きがない、集中力がない、乱暴な行動が多いなど、どの園やクラスにもいる“気になる子”。「背景」はひとりひとり異なり、サポート方法も変わります。最適なサポートを考えるヒントに。